

独立行政法人日本貿易振興機構  
2023年度 第2回契約監視委員会 議事概要

1. 日時：2023年12月21日（木）14:00～15:30

2. 場所：日本貿易振興機構10階会議室

3. 出席者：中村信男委員長、尾花真理子委員、高木和人委員、高原正樹委員、宮本史昭委員

4. 議事：

- (1) 2023年度における一者応札・応募であった案件の事後点検
- (2) 2023年度における競争性のない随意契約に係る事後点検
- (3) 調達等合理化計画について（状況報告）
- (4) その他

5. 議事概要：

(1) 2023年度における一者応札・応募案件

事務局及び契約担当課より2023年4月から9月に実施した案件につき説明。

<委員からの主な意見・質問等>

○金額の大きい入札の予定価格作成方法に関して、第三者に対して公正性を説明できるよう引き続き留意すること。

○システム開発を行う初期の段階で汎用性の高い技術を取り入れることで、応札の間口が広がるのではないかと。一方、その技術が機構の業務に合致するかも見極める必要があり、バランスが重要となる。

○他社が開発したシステムのメンテナンス入札に参画する難易度は高いのが一般的だと考える。今後新規にシステム開発の入札を実施する際に、運用・保守も含めたライフサイクルコストも含めた一括入札を検討すべきではないかと。

○システム保守の価格に関して、急に価格が上がっていないか等トレンドを精査することが必要。

○受託者要件を見直すことで広く応札者を募れるのではないかと。受託者要件を定める際は、記述を明確にし、応札予定者に適切なメッセージを伝えることが重要。

○労働者派遣業務において一者応札となる背景はわかった。一方で、ジェトロが推進する第6次中期計画の四本柱の一つである高度外国人材活躍推進の観点からも、人材派遣会社だけを視野に入れるのではなく、大学と連携して留学生を登用すること等、真の競争性を確保する観点から異なる視点から検討してはどうか。

(2) 2023 年度における競争性のない随意契約案件

事務局及び契約担当課より 2023 年 4 月から 9 月に実施した案件につき説明。

<委員からの主な意見・質問等>

○随意契約においても、対外的に説明できるように仕様書に機構が求める要件等を明確に記述すること。

○契約期間を決定するにあたり、意思決定のプロセスを明確にすると良いのでは。

(3) 調達等合理化計画について（状況報告）

<委員からの主な意見・質問等>

今後新規にシステム開発の入札を実施する際に、運用・保守も含めたライフサイクルコストも含めた一括入札を検討することは、調達の合理化にもつながる。

(5) その他

特になし。

以 上